Eco & Peace Navigator

食材のお届けだけじゃない! パルシステム東京の 社会活動をご紹介。

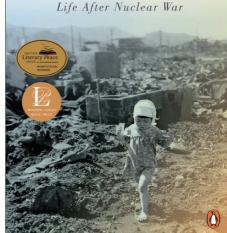


発行日: 2023年8月7日 発行: パルシステム東京 組織政策推進本部

Scrupulous, passionate, and compassionate history at its very best.' —John W. Dower, Pulitzer Prize-winning author of Embracing Defeat: Japan in the Wake of World War II

SUSAN SOUTHARD

NAGASAKI



▲アメリカで出版された NAGASAKI Life After Nuclear War

語りつなごう 平和への願い

パルシステム東京では、「パルシステム東京平和政策」に基づき、戦争や原爆被害の恐ろしさを 学び伝える活動を続けています。被ばく者の超高齢化が進む中、被ばくや戦争の記憶をどう継 承していくのか、考えていきましょう。

きのこ雲の下で何があったかを知ってほしい ―被ばく者の人生を見つめたアメリカ人―



スーザン・サザード 氏

アメリカ、ノースカロライナ州在住。被ばく者の通訳をしたことがきっかけで、長崎で被ばくした 5人の人生を軸に、原爆被害の実相、アメリカから見た原爆投下の背景、当時の日米の社会を描いた 「NAGASAKI Life After Nuclear War」(日本語版「ナガサキー核戦争後の人生」)を執筆し、 2015年にアメリカで出版しました。

日本に落とされた原爆について、アメリカや世界の人々が抱くイメージは今でもキノコ雲の写真だけです。しかしそれよりもきのこ雲の下で何 が起こったのかを知ることが大切です。それぞれの体験を詳細に知れば知るほど、耐えがたいほどの苦しみだったことがわかります。

被ばく者という言葉でひとくくりになっていますが、取材した5人の被ばく者はそれぞれ原爆によって、異なる苦しみを抱えることになりました。 一生続く身体的損傷、諦めざるを得なかった夢、外見からわかる損傷、友達を目の前でなくす精神的損傷、姉弟の中で自分だけ生き残ったことに よる家族との確執・・・。

一人ひとりの体験は全く異なっていて、そこがとても大切なのです。そしてその個々のストーリーは当事者だけではなく、全世界の人々共有す るべき歴史の一部でもあります。 スーザン氏へのインタビュー詳細はこちらから



宇治川康江さん

スーザン氏の著書に衝撃を受け、ご本人に直接「翻訳させてほしい」と連絡をし、翻訳。2019年 に日本語版「ナガサキー核戦争後の人生」が出版されました。パルシステム東京組合員。

「ナガサキー核戦争後の人生」では平和への願いを語り継ぐ大切さや、そのた めの一歩を踏み出す姿が描かれています。

私の母は戦時、空襲におびえ、毎日空腹で生きた心地もしなかったと聞いています。食べも のを粗末にするととても叱られました。今にしてみれば、母の体験や言葉を聞いていたことが 心に刻まれていて、今の私の行動につながっているのだとも思います。

スーザン・サザード氏来日講演会

【講演日時】11月3日(金・祝)13:30~15:30

場】 板橋区立グリーンホール (大山駅、板橋区役所前駅) 【会

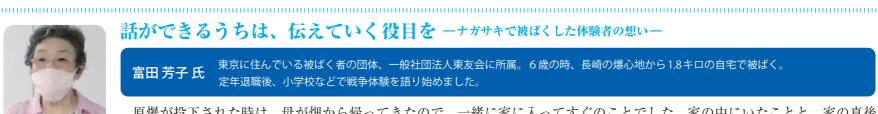
【講演者】スーザン・サザード氏

員】140名 【定

【参加費】無料

催】スーザン・サザード氏招聘実行委員会/ヒロシマ講座

この企画は公益財団法人 ヒロシマ平和創造基金「ヒロシマピースグラント」 の助成事業です。詳しくは、後日週刊 WITH YOU にてお知らせいたします。



話ができるうちは、伝えていく役目を ーナガサキで被ばくした体験者の想いー

東京に住んでいる被ばく者の団体、一般社団法人東友会に所属。6歳の時、長崎の爆心地から1.8キロの自宅で被ばく。 富田芳子氏 定年退職後、小学校などで戦争体験を語り始めました。

原爆が投下された時は、母が畑から帰ってきたので、一緒に家に入ってすぐのことでした。家の中にいたことと、家の真後 ろに山があったことで、たまたま助かりましたが、お隣の家の姉妹は、母と同じくらいに帰ってきたのに、家に入るまでのほ

んのわずかの差で、顔を見ても誰かわからないくらいの大やけどをしていました。また、うちからすぐ近くだけども、山からすこし離れた場所に 住んでいた人たちは吹き飛ばされて全滅でした。

戦後、母に「なんで戦争をしたの?」と聞いて、「わからない。知らないうちに戦争になってた」っていう答えを聞いたとき「えっそんなことって あるの?知らないうちに戦争になったって、そんな無責任なことって・・・。なんで大人は黙っていたんだろう」と思いました。だから私はこうやっ て話ができるうちは、少しでも原爆のことを、あの時、無残に殺された人のことを、せめて分かる人だけにも、聞きたいという人にだけでも伝え ていく役目をしなくちゃいけないんだと思って、こうして話をしています。

子どもへ伝えたい、あの日のこと

子どもや孫に戦争や原爆があったことは知っていてほしい、でもどうやったら伝えられるか― そんな時には一緒に本を読んだり、すすめたりするのも一つの方法です。

はなのすきなうし

作:マンロー・リーフ 絵:ロバート・ローソン



スペインの牧場で暮らす牛、フェルジ ナンド。他の牛たちは闘牛場で勇敢に 闘うことを夢見ていますが、彼だけは お花がだいすき。ある日、闘牛を探し に牛買いたちがやってきて・・・。

未就学児~小学校低学年向け

へいわとせんそう

文:たにかわ しゅんたろう



くらべてみると、みえてく る。「へいわのボク」と「せん そうのボク」では、なにが変 わるのだろう。

本やその文化を見つめてきました。

せんそうがおわるまで、あと2分: 作: ジャック・ゴールドスティン 訳: 長友恵子



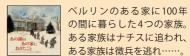
せんそうがおわるまで、実話を元に作られた作品。 親友二人が戦場へ。何とか 生き残った彼らに、戦争が 終わる2分前におこったこと とは・・・。

小学校高学年以上向け

あの湖のあの家におきたこと

東京の吉祥寺と大阪に店舗がある子どもの 本の専門店。1976年の創業時から子どもの

> 文:トーマス・ハーディング 絵:ブリッタ・テッケントラップ 訳:落合恵子



おすすめしたのは、株式会社クレヨンハウス

の間に暮らした4つの家族。 ある家族はナチスに追われ、 ある家族は徴兵を逃れ……。

聞いて、歩いて、五感で知る戦争体験

東京大空襲・戦災資料センター

東京大空襲の資料を展示。映像資料や展示が豊富で、戦争体験者の証言や 小学生向けのイベントなど、様々な企画を行っています。

■開館時間 10:30 ~ 16:00

■入 場 料 一般:300円/中·高校生:200円/小学生:100円

未就学児・障がい者:無料

■休館日 月曜日

所 東京都江東区北砂1丁目5-4

■アクセス 電車:住吉駅、西大島駅より徒歩20分

都営バス:「北砂一丁目」より徒歩1分、「北砂三丁目」より徒歩7分

「扇橋二丁目」より徒歩10分

8月にイベントがあります! 詳細、申込みはこちらから









下町戦跡めぐり~東京大空襲を知ろう2023~



東陽町駅の近くにある深川親子地蔵尊

身近にある戦争の跡を学ぶ企画です。東西線東陽町駅から東京大空襲にゆかりのある戦 跡をめぐりながら、東京大空襲・戦災資料センターへ向かいます。戦災資料センターでは、 東京大空襲を体験された方のお話を聞き、オンラインでも配信します。

- 時 10月15日(日) 午前中
- ■定 員 現地参加20名(戦争体験者のお話のみ オンライン100名)
- 催 パルシステム東京
- ■申込方法 9月3回配付の週刊WITH YOU またはパルシステム東京ホームページ、 イベントページ (9/4公開) をご確認ください。



江東区役所前にある 母子像「希い(ねがい)」

戦時下のご飯

なん こう めし 楠公飯

- ■玄米をきつね色になるまで炒る。
- ■たっぷりの水につけて一晩寝かせる。
- ■通常より多めの水で炊く。

レシピはこちら`

戦下のレシピ 斎藤美奈子著 岩波書店

戦時中の家庭料理にまつわる世相を、当時 の婦人雑誌に掲載されたレシピと共に紹介 しています。





みよう

ご自身、又はご家族などから聞いた戦前、戦下、戦後のエピソードを募集します。 実体験や、何気ない日常の中のエピソードなど何でもお寄せください。 寄せられた内容はパルシステム東京のホームページで公開させていただきます。

戦争体験を募集します。

ご自身、ご家族の



投稿はこちらから▲ 個人情報は不要です。

- ●ある日、満腹で「死ぬほど食べた~」と口にしたら、 母からひどく叱られた。戦時中、常に空腹の毎日を 送っていた母には、耐えられない言葉だったのだ。
- ●夫の父はサツマイモだけは嫌い。戦時中サツマイモ ばかり食べていたからだと言っていた。



各回お飲み物と軽食付き月

金曜の夜に、世界の国々の文化と平和について触れるひとときを・・・

Night Peace Café

~ナイトピースカフェ~

Night Peace Café とは・・・

働く人の人生を豊かにするための平和講座です。毎回、パルシステム東京と関係の ある団体をお招きして、「世界のどこかで起こっていることを知る」ことで、何気な い日常に新しい気づきが芽生えることを目的としています。

第1回 9月 8日(金)中東の世界は本当に遠いの? 私たちの生活とパレスチナ

第2回 (予定) 11月10日(金) ファストファッションから平和を考える 第3回 (予定) 2月 9日(金)バレンタインチョコから平和を考える 詳しくは、パルシステム東京ホームページ、週刊WITH YOUでお知らせいたします。



こちらから▲

